

5. 各種プロジェクト

1. 学生宿舎運営支援プロジェクト

小平国際学生宿舎及び国立国際交流会館では、多様な寮生をサポートするために多くの学生アシスタントが寮運営に携わっている。小平国際学生宿舎には執行部チームであるレジデント・アシスタント (RA) 35名と共用ユニットの居住者間交流の橋渡しを担うコミュニティ・アシスタント (CA) 19名、また国立国際交流会館の RA5名が常駐している。彼らを現場指導するスーパーバイザーとして、留学生・海外留学相談室部門の教職員が各宿舎での現場指導にあたっている。

1-1 小平国際学生宿舎寮組織 (ISDAK) の運営支援

2015年度のISDAKの執行部チームは、本学25名のRAに加え、東京学芸大学4名、東京農工大学3名、電気通信大学3名の計35名から構成された。各RAは基本業務として「1. フロアの寮生サポート」、「2. 班活動」、「3. ISDAK イベント」の領域をそれぞれ担っており、宿舎アドバイザーはRAによる寮運営における指導・助言を行う。

「1. フロアの寮生サポート」は、いわばRA活動の基幹となる業務であり、RAはそれぞれ自分の担当フロアを持ち、担当する寮生にきめ細かいサポートを提供している。2015年度の小平国際学生宿舎におけるISDAKの管轄エリアは、【共用タイプ (6室) × 35フラット】と【個室タイプ (8~22室) × 47フロア】の合計82フロア (502室) であり、これらを35名のRAで担当した。

次に「2. 班活動」であるが、これはISDAKの組織運営に関する業務で、RAはそれぞれの資質及び得意分野に基づき、3月のRA業務引き継ぎ研修の中でどの班に所属するかを決定する。班活動はその活動期間から短期系班と通年系班の2つに分類され、RAはそれぞれ短期系1つ、通年系1つの計2つの班に所属することになる。これまでは班業務を含む全てのRA活動の意思決定はRA会議に集約されており、毎月のRA会議で膨大な審議事項による過度な時間拘束を招いていた。しかし2012年度から業務整理を行い、班活動に関する事柄については班内及び関連班同士で確認・決定し、RA会議では班の活動報告を行うことになった。また、各班には必ず前年度に業務経験のあるRAをリーダーとして置き、新任RAへの確実な引き継ぎを可能にした。本体制での運用は2015年で3年目を迎え、班の役割がこれまで以上に明確化し活動の質が高まったと共に、班ごとの活動ノウハウを蓄積することが容易となったことが成果として表れている。

「3. ISDAK イベント」(原則毎月開催)においては、各RAが必ずひと月のイベントを担当し、地域及び外部団体とのイベントの協賛や寮生発案のイベント企画選定・実施補助を行う。ISDAK イベントのうち、地域交流団体 (KIFA) と行うもちつき大会 (1月)、小平商店街ツアー (5月)、お茶会 (6月) は恒例行事として固定化されつつあり、フリー

マーケットや CA 主催の流しそうめん体験など新たなイベントも行われた。2015 年度の RA 活動は表 1 の通りである。

表 1 2015 年度の RA 活動業務

| RA の業務 | 業務名 | 主な活動内容 | |
|---------|-----------------|----------------------------------------------|--------------------------------------|
| ①フロア活動 | 担当フロアにおける寮生サポート | 担当するフロアの寮生サポート 連絡伝達・フロア予算とりまとめ | |
| ②短期系班活動 | 春ウェルカムパーティ | 入寮者歓迎イベント企画・実施 | |
| | 春ガイダンス | 新入寮者向けガイダンス企画・実施 | |
| | 春受け入れ | 新入寮者受入業務 | |
| | 夏フェアウェルパーティ | 退寮者送り出しイベント企画・実施 | |
| | 秋ウェルカムパーティ | 入寮者歓迎イベント企画・実施 | |
| | 秋ガイダンス | 入寮者向けガイダンス企画・実施 | |
| | 秋受け入れ | 新入寮者受入業務 | |
| | 冬フェアウェルパーティ | 退寮者送り出しイベント企画・実施 | |
| ③通年系班活動 | D 棟サポート | 夫婦家族者サポート | |
| | 会計班 | 予算案・決算書作成、会計報告とりまとめ | |
| | CA 班 | CA マネジメント、連絡調整、会議とりまとめ | |
| | 広報 (HP&報告書) | HP 管理・問合せ対応、RA 活動報告書調整 | |
| | 面接研修班 | RACA 面接官の調整、引き継ぎ合宿とりまとめ | |
| | Music Party | 毎月の音楽イベントの企画・実施 | |
| | 渉外・備品 | 外部との連絡窓口及び ISDAK 備品の管理 | |
| | イベント班 | 月 1 回の寮内交流イベントの企画・運営 | |
| ④月次活動 | 4 月 | 小平商店街ツアー | 地域・外部団体との協賛イベント、及び寮生発案イベントの企画選定・実施補助 |
| | 5 月 | Music Party | |
| | 6 月 | お茶会 | |
| | 7 月 | 流しそうめん体験 | |
| | 10 月 | 防災訓練 小平食べ飲み歩きツアー ハロウィンパーティ フリーマーケット | |
| | 12 月 | クリスマス会 | |
| | 1 月 | KIFA×ISDAK 餅つき大会&着付け | |
| その他 | 2 月 | RA/CA 感謝状授与式 新 RA/CA Open Dorm | |

国際学生宿舎は前述の通り【共用タイプ (6 室) × 35 フロア】を擁しており、共用タイプのフロアには担当 RA に加え、居住者としてコミュニティ・アシスタント (CA) が入り、共用フロア固有のトラブルや、外部からは発見が遅れがちな諸問題に対し、いち早く把握し対応できるよう体制を整えている。2015 年度は CA19 名と、CA 班 RA5 名が寮生支援を行った。

5. 各種プロジェクト

1-2 国立国際交流会館の寮運営支援

国立国際交流会館では、5名の学生がレジデント・アシスタント（以下 RA）として居住し、留学生の異文化環境での生活のためのサポートや会館居住者間の交流促進に努めている。具体的には、指導主事（留学生相談室教員1名）と会館職員2名の指導と協力のもと、RAは各フロアを担当し、日常的に会館に居住する留学生の生活サポートを行い、月例のフロア・ミーティングでは話し合いや交流の場を設けると共に、必要な情報の提供を行っている。また夏学期と冬学期の初めに新入居者ガイダンスを実施し、年に4～5回の交流イベントを企画・実施している。2015年度に実施した主なイベントは表2の通りである。

表2 2015年度の実施イベント一覧

| 月 | イベント |
|-----|-----------------------------------------------|
| 4月 | 新入居者ガイダンス&ウェルカムパーティー |
| 5月 | 防災センター見学&バーベキュー |
| 9月 | 新入居者ガイダンス&ウェルカムパーティー |
| 11月 | 避難訓練（国立市民ボランティア団体・Kuniboとの共催）&バーベキュー |
| 12月 | 餅つき大会（国立市民ボランティア団体・国立国際交流会との共催） クリスマスパーティー |

一昨年に引き続き2015年度もRA5名で寮の運営にあたったが、業務量から適当な人員数であった。国際交流会館ではRAが少人数の上、1年で半分が入れ替わる傾向があるため、ここ数年新人RAのトレーニングに力を入れ、居住者に継続的に質を保った支援が提供できるよう努めている。2015年度は「RA Handbook」を改訂し、これまでに寮でRAが対応した事例集を追加した。また、新入RAトレーニングを半日から1日に延長し、これまでのRA業務に関する説明や実習に加え、RA全体のチーム・ビルディングのアクティビティーを追加した。

次に、年2回のRAの募集・採用に関する活動が、これまで大きな負担になっていたため、2015年度より年に1回の実施に変更した。RAポジションへの応募者数が増加傾向にあり、選考を実施するのに十分な数の応募があるため、今後もRA採用は年1回の実施とする。また、RAの任期を2年から1年に変更し、更新を希望するRAについては、指導主事が面談の上、新たに1年の任期で再雇用するシステムに変更した。実質的には1年の任期で卒業を迎え退任するRAが多いが、RAポジションに数年間つく学生もいるため、RAのモチベーションの維持とRA業務の質を保つため、新制度を導入することにした。

次に居住者の生活支援と交流イベントについては、交流イベント数を限定し、質の高いイベントの実施に努めた。その結果イベントへの参加者数が増加した。このため、来年度は予算を見直し、イベントへの予算配分を増やす必要がある。また、参加人数が増えたことにより、パーティーの準備や実施のサポート体制を検討する必要がある。来年度は居住者から、イベントの際にボランティアを募ることを検討したい。

最後に国際交流会館では、留学生が地域社会と交流し、日本での社会生活の充実を図ることの重要性を認識し、国立市民また国立市の国際交流団体との協力・連携に努めている。1階にあるCCホールを国立市民と共同による各種イベントのために開放するほか、2015年度はKuniboと避難訓練、国立国際交流会と餅つき大会を実施した。

1-3 学生宿舎スタッフ (RA・CA) の採用活動

組織再編成に伴い多様な寮生ニーズに対応するため、小平国際学生宿舎の執行部チームであるレジデント・アシスタント (RA) と、共用ユニットの居住者間交流の橋渡しを担うコミュニティ・アシスタント (CA) の大幅な増員を2012年～2015年にかけて行った。このためRA・CAの採用に一層の工夫が必要となった。

新規RA・CAの選考過程では教職員及びRA面接班が年度ごとの採用計画に基づき、①書類選考、②面接(2回)、③グループ・アクティビティを通して、個人の能力に加え集団で活動する能力に長けているかを慎重に確認する。同様に、継続RA・CA(一年毎の更新制)に対して、任期中の実績と教職員面談により活動継続の有無を判断する。2015年度は新規・継続者を含めRA30名(国際交流会館RA5名を含む)・CA19名が活動した。※このほか、小平国際学生宿舎では、東京学芸大学RA4名、電気通信大学RA3名、東京農工大学RA2名がISDAK執行部チームとして共に活動した

RA・CA制度の抱える慢性的な問題として、卒業に伴う人員確保の課題があげられる。新年度開始までに約20名以上の新学生スタッフをまとめて採用する必要があるため、前年度12月ごろから説明会開催、口コミ募集・寮内リクルーティング、出願課題、選考方法など、募集から広報に至るまで様々な採用施策をRAと大学が一丸となって講じている。このため、RA・CA増員後も、採用基準を下げることなく質が保たれているが、新年度の需要過多は常に問題となる。

これとは逆に、秋の採用時には派遣留学制度帰国者からの応募数が伸びるが、採用枠数は任期途中で抜けたRA・CAの穴埋め程度しかないため供給過多となる。この現状を打破する施策として高い水準に達していると認められた学生に対して翌年春の採用1次面接を免除し、次年度への応募者を増やすことができた。また、派遣留学中のため採用面接に直接参加できない学生に対し、Skype面接を行うことで、派遣留学で得た経験を帰国後役立てたいという声にも応えることができた。今後もこの方法により、質の高い学生への早期アプローチを続けていく。

5. 各種プロジェクト

1-4 国際学生宿舎の各種ガバナンス

小平国際学生宿舎では、4 大学（一橋大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学）の関連部署、国際学生宿舎専門委員会構成員、宿舎アドバイザー、管理会社、各学生寮委員会など、複数の寮関連組織が入退寮管理業務及び寮生指導・教育・サポートを行うという複雑な構造になっている。そこで、組織を超えての情報交換や打合せを頻繁に行う必要がある。宿舎運営に関する主な事柄は表 3 の各会議において審議・報告された。

表 3 宿舎運営会議

| 主催 | 活動名 | 開催 | 参加者 |
|---------------|-----------------|--------------------------------------------|---------------------------|
| 国際課 | 4 大学合同打ち合せ | 7 月 30 日 1 月 14 日 | 4 大学教職員および RA |
| 学生支援課 | 国際学生宿舎専門委員会 | 7 月 1 日 12 月 1 日 2 月 17 日 3 月 4 日 | 専門委員会委員、学生寮委員会代表 |
| 管理事務所 | プラザ会議（寮） | 6 月 26 日 | 学生寮委員会、学生支援課、国際課、宿舎アドバイザー |
| | プラザ会議（課外活動） | 7 月 24 日 | 各課外活動団体、学生支援課、宿舎アドバイザー |
| レジデント・アシスタント | レジデント・アシスタント会議 | 毎月 第一土曜 | レジデント・アシスタント 宿舎アドバイザー |
| コミュニティ・アシスタント | コミュニティ・アシスタント会議 | 毎月 第三水曜 | コミュニティ・アシスタント 宿舎アドバイザー |

（阿部 仁、渡部 由紀、五嶋 春奈）